

速報！

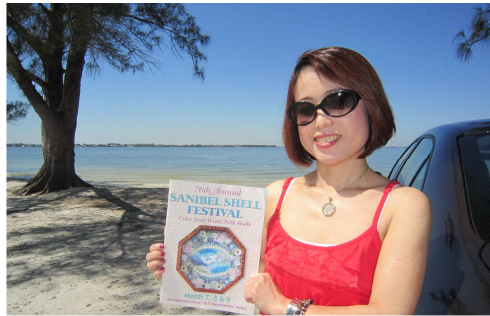
## 「飯室はつえ先生の 2013 年サニベルシェルショーのご報告」

サニベル島の朝 2013・3・7

今日はサニベルシェルショーの初日です。

例年なら暖かいはずのフロリダは快晴にも関わらず、半袖では居られない肌寒さです。

フォートマイヤーズのホテルから島のショーの会場まで、ショーの開催を知らせる電光掲示板や、車の渋滞、交通整理のポリスマン。いつもは静かなバケーションエリアがショーの開催で盛り上がり賑わっています。



今年の飯室先生の目玉作品は何と言っても、一部の関係者には既に驚きを与えた新シリーズの「MIRAGE」です。

昨年秋にフィラデルフィアショーで衝撃デビューをしたフレームの内側に鏡を張り巡らし、覗き込むと永遠にセーラーズバレンタインが広がるデザインが不思議な作品。

その上今回は先生の自信のアイデアはなんと、シェルパーツが乗るフレームの底が立体的な透明なアクリル板で作られ、更に背後から5つの強力なLED照明がシェルたちを透かして色取り取りに輝き、周りの鏡に映って広がってゆく、それは初めて見た時はあまりの美しさに誰もが声を上げずにはいられないものです。WAO!



搬入の際には周りの作品の作者から作品を近づける事を避けられるほどでした。

さて、朝一番に到着したにも拘らず駐車場は一杯で遠くの臨時駐車場から歩くことに。

会場入り口は人だかり、島を挙げてのお祭り模様です。

既に展示を見終わって出てきたマニアックな一般客や関係者、参加アーティスト達が先生に気付くと、口々に「MIRAGE」への賞賛の言葉と握手と HUG、予想通り、それ以上の大反響です。それもそのはず、ここでは先生は既に結構有名人です。



ところが、なぜか会場を沸かす「MIRAGE」の展示ブースには、今や先生のメイン作にはお決まりの「ブルーリボン」どころか何の賞も与えられていませんでした。

誰もが不思議に思う事態です。

会場には今回のジャッジメンが揃っていて、早速先生や私たちに説明をしてくれました。

「素晴らしい作品です」「いいアイデアだ」「とても美しい」やはり絶賛です！でしょ？

**BUT**「しかし！」です。

審査では大変物議が交わされたそうです。

素晴らしい作品だが、そもそもこれは「セーラーズバレンタイン」なのかどうか？

今回あくまでセーラーズバレンタインである事にこだわった先生は、オブジェ部門ではなく一番セーラーズバレンタインらしい作品が競い合う部門へエントリー、真っ向から勝負をしたのです。

ところが、ジャッジ達の出した答えは「NO!」でした。作品の素晴らしさは認めつつも、フィラデルフィア大会の鏡だけの「MIRAGE」まではギリギリセーフ、今回の LED 仕込みの **ELECTRICAL** なものは、”TOO DIFERENT”「違いすぎる」。

つまりはやりすぎだと？ほかのセーラーズバレンタインでは無い部門へエントリーなら **OK!** と言うことだそうです。

「常にチャレンジ!」の先生、今回は少々勇み足？「やっちゃった」ようです。なのに落ち込むどころか「いい勉強に成りました」とは脱帽です。

賞のリボンは有りませんが、先生のブースには人だかりと驚嘆の声が絶えません。

私も「いい勉強に成った」と言いたいところですが、賞にこだわる私は、悔しくて悔しくてパーボンのヤケ酒です。反対に先生に励まされる始末、なんともプロデューサー失格ですね。

ところで今回の怪我の功名もあり、更に話題のアーティストに成った先生の、アメリカには無い飯室流の作風を教えてほしいというアメリカの人たちの要望が集まり、それを受け次回の秋のフィラデルフィア大会に合わせてケープメイにて「MIRAGE」の作り方を指導する特別教室（ワークショップ）が開催されることに成りました。（ボランティアスタッフ募集？）

伝統セーラーズバレンタインの本場のアメリカ人に日本人作家が JAPAN スタイルを伝授する。なんてワクワクする話でしょう。

今回のエントリー作品は4作品、そのうち2つが「MIRAGE」と「SMALL MIRAGE」残る2つの片方は、お馴染みのWセーラーズバレンタインの「KAIAWASE（貝合わせ）」今回は本真珠をふんだんに使った優雅な作品、こちらもファンが多いオリジナルのジャパニーズセーラーズバレンタインです。

そして、最後の一つは昨今ではアメリカ人の制作者が少ないことが嘆かれているトラディショナルセーラーズバレンタインの満を持しての発表でした。

この2作品はどちらもそれぞれの部門で銀メダルにあたるレッドリボン（第二位）に輝きました。実はこれは快挙です！



実際規定や制限が多く厳粛な伝統技法を求められるトラディショナルスタイルから、セーラーズバレンタインの枠からはみ出す様な話題作まで作る「小柄な日本人女性」はいよいよその存在感を大きくしたようです。



皆さん口々に「また来年も！」と再会の約束を求めます。  
もちろん先生も「来年もまたチャレンジします！」と答えます。  
そして次回は日本の教室の生徒さんも参加するとの予告を加えて。  
その時には生徒さん達に出展部門の選択の厳しい指導がされる事でしょう。

サニベルの美しいビーチのお話と、道中の度重なるアクシデント等の土産話は帰国後ゆっくり先生からの笑い話でお聞きください。モチロン作品のお披露目も…

まずは心配していただける生徒さん関係者のみなさんにご報告まで、

プロデューサーの鈴木でした。